

東京大学企業訪問研修

私は新しい考え方、生き方に触れることで自分の夢や目標を明確にしたいという理由からこの研修に参加した。結論から言うと自分の夢はまだ明確になっていない。しかし、この研修から、今何をすべきか、どういう心構えで生活するべきか、ということを見出すことができた。

笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共催 夏季プログラム「世界を視野に、自らを生かす。」

1日目、朝早くの新幹線で東京につくとさっそくプログラムの一つ目である夏季プログラムが始まった。会場は国際会議場で外観も内装もとてもきれいだった。まずは笹川平和財団の理事長である田中伸男氏（前国際エネルギー機関（IEA）事務局長）の講話だった。ここでは世界のエネルギー問題に関する話やそれに関する日本人の若者の心構えなどを聞いた。エネルギーの問題についての説明では多くのデータを見ることができ詳しく知ることができた。そして次はグループセッションであった。海外で活躍された方と質問形式で多くの話を聞くことができた。その中でも強く印象に残っているのは以下の四つのことである。一つ目はグローバルな視点を持つべきだということである。今回の講師の方の話の中で「今はグローバル化しているというよりはすでにグローバル化されている」ということを聞いた。また「グローバルな視点を持つということは何も英語が話せばいいというわけではない。常に意識を海外に向けることが大切である。」ということも聞いた。グローバル化された社会について考えるのはあまり身近に感じられない難しいものだった。それでも今後はグローバルな社会というものはもうすぐ来るとかいう話ではなくすでに始まっているということを前提に物事を考えていかなければならないと感じた。二つ目は論理的な思考を持つべきだということである。物事について疑問に思ったことなど深く掘り下げてみるとよいということを知った。しかし掘り下げることをその場でやってみようとしてもすぐには思いつかなかった。今後は普段の生活で気になることを積極的に調べたり、考えたりして、論理的に考える力を養えたらよいと思う。三つ目は個性を持つべきだということである。日本の社会、教育は個性をなくすような方向に向いていると講師の方はおっしゃっていた。例えばアメリカでは整列するとき前へならえはしないし、食べ物を頼むときはそれぞれが食べたいものを主張すると聞いた。日本では前へならえは誰もがさせられたものだし、食べ物を頼むときに〇〇さんと同じとかどれでもいいとかいう人も多だろう。アメリカの例は極端な話だと私はその時感じたが、実際のグローバルな時代においてこれは普通のことなのだろうと考えた。社会において人に合わせるということは非常に大切なことだろう。しかし、自分の信念は曲げない、主張するときはする、ということをおぼろげに生活していきたい。四つ目は二足、三足のわらじを履くべきだということである。これはすなわち一つのことに専念、執着せず様々なことをすべきだということである。講師の方の例でいうと職に就いた時に他に資格を持っていたため、どうせこの仕事がだめでも転職すればいいと考えられたため気楽に仕事をするすることができたそうだ。ここでは資格がそれにあたったが別にほかでもよいだろう。私はこの話を聞いてたくさんの趣味を持ちたいと考えた。勉強や部活動だけでなく幅広い趣味を持つことによって新たな発見があり、将来の職業や夢へとつながるかもしれない。今後の高校生活においては余った時間を有効に活用しながら多くのことに興味を持ってたらよいと思う。

国立天文台三鷹キャンパス

私が国立天文台を選んだ理由は二つある。一つ目は研究者の生の声を聞いてみたいということである。私は明確ではないが将来研究をする職業に就きたいと考えている。そのために実際に研究を行っている施設に行くことで研究者について知りたいと考えた。二つ目は自分の興味を広げたいということである。大学では理系に進みたいと考えているものの分野まではまだ決めていない。天文学もその候補であったため、分野選択の材料になればよいと国立天文台に訪問した。国立天文台へ着くとまず館内を案内していただいた。館内には多くの研究室があり訪問した時も多くの先生方がいた。また、今回の訪問では特別に普段は立ち入ることのできない施設を見学することができた。それはTAMA300である。これは1995年に三鷹キャンパス内に建設された干渉計型重力波検出器であり、例えばブラックホールや超新星爆発などを観測することができるのである。このTAMA300を実際に見てみるとレーザーが通っている管が部屋から地下に300mも伸びていて迫力があった。TAMA300の見学が終わると事前に送った質問についてお話をいただいた。訪問後、その中でも私が特に聞きたかった二つの質問について少し考えてみた。

Q1 天文について研究しようと思ったきっかけ

A1 直接のきっかけは天文学者カール・セーガンの本を読んだこと

ほかにも小さいころに見ていたアニメなどにも影響を受けた

この質問を研究者にできたことは本当に意味のあることだったと思っている。なぜなら、研究者を目指すということはその分野について強い関心を持っていなければできないことだからだ。お話をいただいた先生は一冊の本がきっかけであった。しかし、本を読む前にその本が研究者になるきっかけになると考えていただろうか。将来につながるきっかけはいつ訪れるかわからない。今回のような研修も将来にとって大きなものとなったが、日常生活の中にもきっかけは潜んでいるかもしれない。そのチャンスをつかむためにも、普段からより多くのことに取り組んでいきたいと考える。

Q2 研究をする上で大切なこと

A1 疑問を持ち続けること

→偏見や固定観念を持っていることに気付ける

疑問を持ち続けて考えることによって新たな発見が生まれる。そしてその発見によって偏見や固定観念に気付かされたりもする。また、その発見を突き詰めることでさらなる発見を生み出す。このサイクルの原点は疑問を持つということであり、これまでの偉大な科学者たちもここを出発点として多くの発見を生み出してきた。私自身も研究するときに限らず、普段の生活の中から身の回りの多くのことに関心を向け、疑問を持つことでそこから多くのことを発見し学ぶことができたらいと考える。

質問ではこのほかにも天文に関する質問など自分の知識を広げる良い機会となった。時間が十分に取れなかったことは残念だったが、将来へとつながる貴重なお話を聞くことができ非常にうれしく思う。

この研修の二日間で学んだ今すべきこと、それは様々なことに関心を向けて取り組むことである。一見何をしなければならぬのか定まっていないように思えるかもしれない。しかし、それが研修を経て導き出した結論である。今様々なことをすることで将来へのヒントを見つけられるかもしれない。また、このようにして学んだものの中には社会に出てから役に立つものがあるかもしれない。そのように考え

ながら目の前にある好きなこと一つ一つに全力で取り組んでいきたいと考えている。

このような機会を用意していただいた笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォースの皆様、国立天文台の先生方、二高の OBOG、先生方へ感謝申し上げます。将来へとつながる貴重な経験をありがとうございました。